

第2回川口市青少年問題協議会 議事概要

- 日時 令和5年1月24日（火）14時～
- 場所 川口市立生涯学習プラザ 講座室1号
- 出席委員（敬称略）
小野寺会長、田中（隆）委員、浅田委員、菊地委員、高倉委員、
富田委員、亀田委員、梅田委員、小野委員、川上委員、星委員
- 事務局 阿部子ども部長 大澤青少年対策室長 久保田室長補佐
大塚主査 根岸主任
- 次第
議事
（1）青少年健全育成ビジョンの現状について
（2）青少年健全育成ビジョン企業との連携について
（3）その他（連絡事項等）
- 傍聴人 なし
- 会議資料 令和4年度第2回川口市青少年問題協議会資料

1 開会

2 開会宣言（小野寺会長）

3 事務局長挨拶（子ども部長）

4 本会議について

委員の半数以上の出席により、会議が成立する旨確認
会議録の作成、会議の公開、傍聴者無し確認

5 議事

小野寺会長が議長となり、議事進行

【議長】

本会議の議事録を作成するため、議事録署名人を富田委員、高倉委員を指名

【各委員】

承認

【小野寺議長】

「議題（1）青少年健全育成ビジョンの現状について」事務局へ説明を求める。

【事務局 久保田室長補佐】

<以下説明骨子>

昨年6月30日に実施し第1回会議において、青少年対策室が考える青少年健全育成ビジョンとして提示した、資料の左側に記載されている構想を説明する。

ビジョンでは、青少年の活動の場づくりや、青少年リーダーの発掘と育成を目途とした関係事業の実施及び生涯に渡る活躍の場となるような各団体、並びに地域に構成されている各団体・機関との連携の必要性を掲げている。

初めに、ビジョンに掲載されている事業の、今年度の実施状況について説明する。

資料左端に掲載「関係事業」について、今年度、「青少年まつり」及び「通学合宿」は、新型コロナウイルス感染拡大が懸念されることから、中止とした。

両事業とも、令和5年度は実施する予定となっている。

その他の事業はすでに実施済み又は実施予定で今後実施を予定している事業は、親子の音楽会、明るい街づくり運動推進大会となっている。

今年度これまでに実施した事業について説明する。

(子ども自然体験村について)

泊まり(2泊3日)で行っていた事業を、デイキャンプ(日帰り)として実施した、夏休み期間中の4日間を計画し、うち1日は雨天中止となったため、実績としては3日間実施となった。

全ての回において抽選となるほどの参加希望があり、多くの子ども達が参加した。

これまで事業への協力は、ボーイスカウト・ガールスカウトが主であったが、今回は子ども会・青少年相談員も加わり、事業の企画段階から連携した。事故も無く、好評のうちに終了した。

来年度は、コロナ禍以前の宿泊キャンプに戻していく予定である。

引き続き各団体との連携により、事業の質が高められるよう努めたい。

(七つの祝いについて)

来年4月に小学校へ進学する子ども達を対象に、毎年10月のスポーツの日に式典やイベント、記念品の配布を行っている。

子ども向けイベントの実施や記念品の配布につきましては、子ども会・ボーイスカウト・ガールスカウト・青少年相談員・プレイリーダー協議会に協力して頂いた。

デイキャンプなどで活動の場を共有した各団体が、自主的に連携し事業を進める姿も見られ、事故無く、好評のうちに終了することができた。

来年度以後についても、来場する親子に向けた催しについて、企画段階からの協力をお願いしたい。

(アドベンチャープレイ事業について)

この事業は、前川第6公園と南平児童交通公園を中心に、子どもの外遊びを中心とした体験活動を行う事業で、令和3年度に当時子ども育成課から当室へ移管された事業である。

従来はプレイリーダー協議会を中心に協力依頼していたが、当室への移管に伴い、より進んだ青少年活動となるよう、青少年相談員の方々にも協力を要請している。プレイリーダー協議会と連携して、お祭りなどのイベントのみならず、土曜日に実施している工作などの活動にも参加していただいている。

今後、他の団体との連携を模索しながら、より一層充実した事業内容となるよう、努めたい。

(非行防止キャンペーンについて)

大人も含めた啓発活動を行う事業である。

川口駅、東川口駅の駅頭での啓発活動や、鳩ヶ谷駅市民センターにおいて講演会を実施し、資料に記載のある関係の皆様にご協力を頂いた。

駅頭のキャンペーンでは、青少年相談員や、川口市立高校の生徒の方々にも参加して頂いた。若い世代の方々の参加により、若者自ら非行防止について考えている姿を、街行く皆様に印象付けられたと考える。

以上、青少年健全育成ビジョンの現状について、事業の今年度実績と、各団体との連携実績について説明した。

今後もビジョンに示されている各団体との連携を円滑に、更に活発に進めていくために、行政としてどのようなアプローチが有効なのか、当協議会の意見を参考とし、検討したい。

次の議題2では、ビジョンにおける企業との連携について、現状の具体的な課題を示し意見を伺いたい。

(質疑応答)

【委員】

子ども自然体験村デイキャンプが抽選となったとのことだが、アドベンチャープレイ事業についても同じか。状況と今後行われるものとしてどの様なものがあるか。

【事務局 大塚主査】

アドベンチャープレイ事業に関してであるが、基本的に火・水・木・土曜日に運営している。土曜日の工作については部材の関係がある為、先着順となっているが部材が足りなくなって参加できなくなったとの報告はほぼ受けていない。

近日、実施する新春伝承あそびまつりについても200名程度を想定して準備を進めている。

夏まつりの際は不足が生じたものがあつたが冬については準備万端にしている。

【議長】

皆様、市及び関連事業の内容はわかるか。これが、委員の中でも詳しく分からないと質問がしにくい部分もあるので、事務局は周知を進めてもらいたい。

【事務局 大澤室長】

事業説明が足らず申し訳ない。第1回会議において資料を用意してご説明させていただいているが、今回についてその部分の説明が無かったことから今後皆様にお伝え出来るように方策を練って参りたい。

【議長】

できれば今後、事業に委員の方が出ていただくのが良いかと考える。来季可能であれば新委員の方の為に枠を作り投げかけていただけないかと思う。

室長には検討をよろしくお願いしたい。

【委員】

自然体験村デイキャンプについて、抽選になったとのことであるが、どの程度の申込数があったのか。川口の子どもの数が多いと考えるが数は足りているのか。

【事務局 久保田室長補佐】

デイキャンプの実績については、4日間の申込総数が約530名となる。

4日間で105名の参加を予定としていたので、およそ5倍の申込があったことになる。実際の参加人数は最終回が中止となったため、68名となっている。

数について川口市は人口も多い市であることから、定員の設定については難しい問題がある。

マンパワーと予算を勘案しながら充実した事業になるように努めたい。

【委員】

5分の4が参加できなかったことを考えると次年度は増やしていくべきではないか。

【事務局 久保田室長補佐】

デイキャンプは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って宿泊が難しい中で企画したものである。

本来は宿泊の事業であることから、来年度は宿泊を実施する方向で考えている。内容については更に充実したものを検討している。

【委員】

通常のキャンプは何名が参加するか。

【事務局 久保田室長補佐】

40名を予定している。

【委員】

今回、100名の参加予定とのことであったが、来年度から宿泊で実施するとなると人数を増やすということは難しいと考える。

今後、何か人数を増やす事業方法を考えていくべきではないか。

【委員】

申込したが参加できない子が出るようならば検討していくべきではないか。

【議長】

500人の応募者というのは、注目されている事業だと言えるので是非に検討をお願いしたい。

【事務局 大澤室長】

貴重なご意見ありがとうございます。

デイキャンプを開催するにあたって青少年リーダー等に手伝いをしていただいている。この背景には青少年リーダーの研修を兼ねている部分もある。

市としても応募者が少しでも多く参加できる方法を考えているが、あわせて青少年団体が自ら実施するというのもビジョンの一つと捉えているためご理解いただきたい。

【委員】

デイキャンプについてであるが、子ども会やスポーツ少年団で取りまとめて実施していたこともあるが、今回については団体か個人どちらが多いのか。

【事務局 大澤室長】

今回のキャンプについては全て個人となる。

【議長】

個人で500名の申し込みとのことであれば、是非に青少年相談員や子ども会などに協力していただき、少しでも多くの子どもが参加できるようにしていただければと思う。

自分は通学合宿などにも携わったが、泊りとなるとどうしても制限がかかる。

こういったデイキャンプに目を向けて人数を増やすということも一つの案では無いかと申し添える。

ビジョンをみると、それぞれの繋がりの方がこの会議にいるので是非に委員の方についてもご意見を伺いたい。

【委員】

このアドベンチャープレイ事業について小学校などにチラシ配付しているか。

【事務局 大澤室長】

近隣の学校にチラシを配布させていただいている。前川第6公園の近くの小学校である。

【委員】

近くとはどこか。

【事務局 大塚主査】

主に前川東小学校となる。全校生徒分を配布している。

【委員】

チラシの配付の件であるが、自分の活動でも学校の方にお問い合わせすることがありますが、ときどき配付されてないのではと思うことがある。

そのあたりはどうなっているか。

【委員】

依頼があったものについては配付するようにしている。ただし、それを元に参加を促したりはしていない。

【委員】

新春伝承あそびまつりの会場について、今年は前川第6公園とのことであるが、場所は毎年変わるのか。

【事務局 大塚主査】

今年は3年ぶりの開催となる。以前は市内の大きめの公園で実施していた。

3年前は当時の広報に写真が掲載されているが、ゴリラ公園で実施している。

今回は3年ぶりとのことで、プレイリーダー協議会とも協議・検討し、イベント再開をスムーズに行うために、状況が把握できている前川第6公園で実施することになっている。前川第6公園については駐車場がないため、次回以降については駐車場などを含めてプレイリーダー協議会と協議して決めていきたいと考えている。

【委員】

プレイリーダー協議会について、各地区に支部などはあるのか。青少年対策室内に団体があるのか。

【事務局 大澤室長】

プレイリーダー協議会は青少年対策室が事務局となっているものではない。活動の形態は、拠点となる公園ごとにプレイリーダーが集まる傾向があるが、母体は1つとなる。

【委員】

プレイリーダー協議会に加入するわけではないが、同じ内容をやりたいという団体がいた場合はこの地区内で活動はできるのか。

【事務局 大澤室長】

全く問題ない。逆に子ども達の遊びの場を提供していただけるのであればありがたい。

【委員】

うちの方は田舎なのか、なかなか回ってこないの、自分たちでやらなければと思っている。

【委員】

募集の仕方について、きらり川口情報メールなどは利用されているか。

【事務局 大塚主査】

アドベンチャープレイ事業については、児童センターと一緒にきらり川口情報へ毎月1日に配信している。市LINEの子ども子育て情報に登録している方にも同じく配信している。

【委員】

企業の方でも情報配信をして、人出が足りなければ協力していきたいと考えているので声がけしていただければと思う。

【議長】

事務局の方で是非、声がけしていただければと思う。

【委員】

1カ所でもあることは重要であるが、子ども達が歩いて行ける近隣の場所で事業が実施できないか。理想論ではあるが考えている。

出来れば、市民が行政に頼ることなく、活動ができる土俵が出来上がることを期待する。

【議長】

今後、事務局にて検討をしていただきたい。実施したいという団体は多くいると思う。

【委員】

地元のために、業界の団体ではあるが積極的に子どもたちの為に協力したい。

【委員】

黄色いチラシの親と子の音楽会について、西中学校が協力となっているが、学校としては打診があると、より協力できるといえる。

【事務局 大澤室長】

今回、古くからお願いしていた少年少女合唱団が出演できなくなり、あらためて青少年の発表機会について考え、市内中学校の音楽部をあたったところである。

その中でリリアに近い西中学校に打診したところ、ご快諾いただいた形となる。

【議長】

練習している子ども達の重要な発表の場としても考えていただければと思う。青少年対策室としても、その点についてお力添えいただきたい。

【委員】

警察で唯一関わるのが非行防止キャンペーンとなるが、コロナ禍で、様々な催事が中止という状況下で、徐々にではあるが回復できればと考えている。

デイキャンプについては、限りある予算と人材の中で良い取り組みであると考えている。

【議長】

こういった多くの良い意見があるので、青少年対策室は是非声がけを積極的に行っていただければと思う。

【委員】

育成推進員として毎回、非行防止キャンペーンに参加している。

今年は東川口駅頭で実施した際に高校生が参加して、非常にはつらつとした態度が目にとまった。気持ちよく実施できたので今後もお願いしたい。

【委員】

市内の小中高校にはとても協力的な学校が多い。昨年は残念ながら武南警察署が県下で犯罪認知率が非常に高い結果が出てしまった。

そういった状況から、防犯イベントの実施も検討している。学校だけでなく、市にも協力を要請した際は協力をお願いしたい。

【議長】

委員の皆様においては、このように何か実施する際は協力を要請するという場にこの会議を利用していただければと考える。

【議長】

「議題（２）川口市の青少年の現状について」事務局へ説明を求める。

【事務局 大澤室長】

資料に基づき説明。

議題（２）「青少年健全育成ビジョン企業との連携について」説明。

<以下説明骨子>

議題（１）において、企業との連携を課題とした。

小さなことからでも「つながり」を作ることが必要と考える。

これまでも、問題協の委員の皆様から、それぞれの立場から、協働について前向きなご発言をいただいていたが、市からの提示はなかった。

そこで、懸案事項として認識しながら手つかずの「こども 110 番の家」について、更に有効な取り組みとするための策と、どのように企業等とのつながり、かかわりを生めるか協議をお願いする。

「こども 110 番の家」とは、資料にも記載したが、子供が、「誘拐や暴力、痴漢」などの何らかの被害に遭った、または遭いそうになったとき、その子供を保護するとともに、警察、学校、家庭などへ連絡するなどして、地域ぐるみで子供たちの安全を守っていくボランティア活動のことである。

こども 110 番の家の協力者は、子ども 110 番の家であることを表示するため、専用のステッカーや看板等を玄関先や扉などに設置している。

本市では、平成 9 年度より、この取り組みを実施している。

通学路を中心に、地域の方々にご協力をいただき、令和 4 年現在、約 2,500 枚が子どもの駆け込み先となる家や店舗などに設置されている。

このプレートが設置されるまでの流れは、青少年対策室で「こども 110 番の家」プレートを作成し、プレートを教育局の指導課へ渡し、指導課を通して各学校へ渡るようになっている。

各学校では、各校の通学路を中心に、設置していただける家や店舗をあたり、設置のお願いをするとともに、設置者、設置場所、設置状況の管理をしている。

市内小中学校はあわせて 79 校あり、新たな協力者、劣化による貼り替えなどを想定し、毎年 1,000 枚程度、作成していく必要がある。

こども 110 番の家は、多くのボランティアの協力により、子ども達はもちろん、地域にも浸透している。

指導課に確認したところ、こども 110 番の家に救助を求めたという報告は上がっていない。ないから不要という観点ではなく、抑止力として機能しているものと理解している。

川口市内でも、こども 110 番の駅、こども 110 番のタクシーなど、様々な事業者が 110 番の家ボランティアを社会活動の一環として展開している。

ほんの一部ではあるが、今回紹介する。

川口市のプレートは、作成当初から変わっていない。またイラストについては、平成 21 年に現在のデザインが採用されてから 10 年以上が経過している。広く児童へ浸透しているが、夜間は見えにくくなる問題、イラストが古いこと、針金で留める形状であることなど、より令和の時代に即した改善点があると考えます。

現在のところ、この活動については、地域、学校、行政の連携は図られているが、さらに「子供たちの安全を守る」取り組みを高めるためには、更に認知度を向上させていくことが求められている。

そのために、地元企業や各青少年団体と連携していくことが大切なポイントと考えている。

については、子ども 110 番の家活動におけるプレートそのものの改善策と、企業等とどのような連携が可能かといった視点でご意見を頂きたい。

企業との連携については、事務局で考えを巡らせたが思い付きに近い発想である。

例えば、企業等の事務所や店舗等にプレートの設置促進に取り組んでいただく。

企業内の SNS など発信ツールにこうした活動が広く認知されるよう発信していただく。このほかに、市の 110 番の家プレートの作成を協賛という形でご負担していただき、その代わりにプレートに企業名を入れてはどうだろうかなど考えている。

事務局の発想には限界がありますので、様々な視点からのご意見をいただきたい。

この件について、プレートや活動のしくみが変われば、子ども達への周知はもちろんのこと、協力ボランティアへの説明、また教育委員会との調整など多方面に配慮が必要である。

次年度以降も引き続きの案件になることを申し添える。

【委員】

子ども 110 番の家を多くの子ども達に周知することが大事と考える。川口・武南警察署の方でも建築団体と協定を結び、子ども 110 番建設現場として警備員が配置されている現場に事案があった際の協力を要請いたしました。

子どもが知るためには、やはり教育と連携して周知を図るしかないものとする。

市との連携により多くの人に知らしめることは大切であるが、難しい部分もあるので色々な発信手段を検討する必要がある。

また、プレートを作るにも費用がかかり、予算という枠があるので企業の方に協力していただくのは有効な手段であり、今後情報交換を進めていければと思っている。

【委員】

子ども 110 番の家に逃げ込んだ子が今のところ 0 人とのこと事だが、逆に子どもが被害者となる事件数などはどの程度あるのか。また、場所・時間などはどうなっているのか。

【委員】

具体的な数字は資料が無いためお答えしかねるが、犯罪に至らない子どもに対する声掛け事案について言えば、下校時に独りで路上を歩いているときの発生が一番多いというのは、数年前から継続している。

【委員】

その様な状況で駆け込み事案が無いということは、子ども 110 番の家の存在を知らない子がいるのではないか。ほかの方法で事なきを得ただけで、教育現場で周知することがより効果が出る事ではないか。

【委員】

これは、配っている際に学校から説明をしているのか

【事務局 大澤室長】

毎年、子ども達に子ども 110 番の家の意味、働きを理解させたいと、帰り道のどこにあるか確認させていると聞いている。

【委員】

貼ってあるのは知っているが、知らない家には行けないという子が多いと聞いている。自分の家や友達の家まで走って逃げるといった話がある。この子ども 110 番の家は大丈夫な家であるという認識をしてもらうことが重要ではないか。

また、協力はしていただいても平日の日中は不在という家もある。より吟味して設定することが重要なのではないか。

【事務局 大澤室長】

ご指摘のとおり、川口は日中働いている方が多いので留守家庭も多いという事は認識している。この点について配付する中で学校が工夫しながら進めていただいている。

また、入りづらいという意見も認知している、コンビニなどお店に貼ってあると入り

やすいという意見もあり、子ども 110 番の家となってもお店に貼っていただいている状況がある。地域としてもそういった点を踏まえて声がけしていただければありがたい。

【議長】

知らない家という部分については何か対策をする必要があるのではと思う。

【委員】

犯罪者の面から見ればそういうのが貼ってある地域は防犯意識が高いとなるのではと思う。自分の子どもの家も貼っているが毎日在宅はしていない。しかし、意識をもつという部分を鑑みれば防犯意識を高めるという効果があるのではないかと。

【委員】

この趣旨は理解できたので、自分の事業所を含めて従業員 1 名 1 名に説明していき、お役にたてると思っている。事業組合の方にも趣旨を説明し理解していただければ、川口の青少年の為にお役にたてるようになると思っている。

企業名を入れるなどという提案もあったが、業界が協力すれば費用の面については大変では無いと思っている。組合の議題として取り上げれば積極的に協力してくれる企業も多いと思っている。

【委員】

市役所経済部と中小企業同友会で連携して、地域貢献認定事業というものを行っている。その中の認定要件のひとつとして、子ども達を守る活動や青少年健全育成活動を行っていることなどもある。そういった点を踏まえて、子ども 110 番の家をアピールしていけば良いのではないかと。

看板の作り替えについても、企業だったら少し寄附をお願いするなど、協力も可能ではないかと、また地域貢献認定事業とされれば、更に貢献していただけたらと思う。

【委員】

小学校の方が力を入れていると思う。

中学校では何かあった際に助けを呼びなさいなどと指導をしている。

中学生くらいになると自己判断が出来る様になっているので自らお店などに逃げ込むなどしている。

中学生では、下校時の薄暗い状況で変質者からの案件が多いと感じている。今後も子ども達に身の安全を守るという事を啓発していきたいと思っている。

【委員】

町会など連続して貼っていただける場所を作ることを検討していただきたい。
避難しやすいご家庭を選ぶ、防犯ブザーやパトロールで尽力していただいているが
自己で判断できない子が考えずに避難できる場所を作ることも大事ではないか。

【議長】

自分の中では、相応しくない人が選ばれてしまう懸念もあることから、審査するとい
うことも大事ではないかと思う。学校に依頼する際に一言お願いすることも大事では
ないか。

【事務局 大澤室長】

非常に勉強になるお話が多く、こんなにも皆様が協力していただけるという思いが
伝わってきている。また、相談をさせていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

【議長】

本会では決定しないと思うので、次年度の会でも継続的に進めていただければと思う。
委員の皆様は相談された際は応じられるようにお含み置きいただければと思う。

【議長】

「議題（3）その他」について事務局へ説明を求める。

【事務局 大塚主査】

次回の推薦委員および公募委員について
次年度当初4月に推薦依頼を各団体に送付する。
公募委員については4月号広報に掲載する。
委嘱書交付は6月の第1回を予定している。

【事務局 大澤室長】

明るい街づくり運動推進大会について、ご都合がつくようでしたら出席をお願い
したい。

8 閉会

以上